

広報九州



国民の森林・国有林

平成31年4月10日
(2019年)

No.1766

九州森林管理局

〒860-0081
熊本市西区京町本丁2-7
IP電話:050-3160-6600(代表)
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

地域管理経営計画等の樹立及び変更に係る 有識者懇談会を開催

6森林計画区の樹立・6森林計画区の変更に対する意見を聴取

「国有林野の管理経営に関する法律」等に基づき、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画策定等に係る有識者懇談会を、3月1日に開催しました。

平成30年度は、筑後・矢部川森林計画区(福岡署)をはじめとする6つの森林計画区で計画の策定。また、対馬森林計画区(長崎署)をはじめとする6の森林計画区で計画の変更が予定されていることから、有識者委員の皆様より計画の内容についてご意見をいただきました。



挨拶する原田局長



座長を務め頂いた吉田教授

懇談会では、冒頭、原田隆行九州森林管理局局長より、懇談会の目的、林野行政の動向、今後の課題等について紹介するとともに、計画の策定・変更案について忌憚のないご意見を賜りたいたいの挨拶がありました。

その後、九州大学大学院の吉田茂二郎教授が座長に選出され、議題である「地域管理経営計画

の策定等について」を審議いただきました。

委員からは、「シカ対策に当たってはニホンカモシカの錯誤捕獲を避けるべき」、「溪畔林の保全は長期的には災害に強い自然林型への再生も考えるべき」などのご意見をいただきました。

その後、「平成30年度九州森林管理局重点取組事項について」及び「国有林野の管理経営に関する法律の改正について」意見をいただきました。

委員からは、「民国一体で成長産業化を進めるには森林総合



有識者懇談会の模様



発言される委員(安達会長)

監理士(フォレスト)の登録者数の増加が必要」。木材の新規需要開拓により、無垢材や優良材の値崩れが心配。「持続的な林業経営には、大径材の用途拡大が必要」などのご意見をいただきました。

最後に、井口真輝計画保全部長より、活発な議論へのお礼と、今後、いただきたいご意見を踏まえ、国有林の持つスケールメリットを活かした取組を更に強化するとの決意を申し上げ、懇談会を終了しました。

(担当: 計画課)

第2回屋久島世界遺産地域科学委員会及び ヤクシカ・ワーキンググループ会議を開催

～屋久島が世界自然遺産に登録されて25年目となる～

2月26日及び27日、今年度第2回目の屋久島世界遺産地域科学委員会と同委員会のヤクシカ・ワーキンググループ（WG）の会議が鹿児島県市町村自治会館において開催されました。

冒頭、事務局を代表して原田隆行九州森林管理局長から「屋久島が世界自然遺産に登録されて25年目となる。この間、登山者の急増による登山道の荒廃やトイレの問題が大きな課題となるとともに、ヤクシカによる生態系への影響が顕在化してきた。本日の委員会では山岳部の利用のあり方や高層湿原の保全対策等の具体的な検討状況について説明する。忌憚のない意見を賜りたい」と挨拶。

続いて、荒木耕治屋久島町長から「世界自然遺産地域の保全や活動にご尽力頂いていることに感謝する。屋久島の貴重な自然が次世代へ価値が損なわれることなく引き継がれるよう、町政として取り組んで参りたい」との挨拶がありました。



挨拶される荒木屋久島町長

また、高層湿原の保全対策に関しては、2019年度に水の収支や地下水位の変動、木製歩道が流水に与える影響について、モニタリング調査すること、試行的な保全対策を講じていくことについて報告しました。

また、前日に開催されたヤクシカWGでは、ヤクシカの生息状況等について説明し、委員からは「調査方法によって調査結果に相違があるのは適切にデータを収集・分析されたかどうか疑問である」「効果的なモニタリング調査の実施、ヤクシカの生息個体数の把握が重要」との意見があり今後の検証を求められました。

さらに、森林生態系の管理目標の策定について説明し、絶滅の恐れのある固有植物種等の保全など4項目を目標とすることが了承され、達成度合をチェックするため指標等については、引き続き検討することとしました。

最後に、九州地方環境事務所河原武統括自然保護企画官から「科学的知見に基づく助言をいただき感謝申し上げます。高層湿原の適切な保全・管理、ヤクシカの生態系への影響、山岳部の利用のあり方などについて、今後も関係行政機関が連携を図りながら対処していくので、引き続きご指導ご助言を賜りたい」との挨拶があり、委員会を終了しました。

（担当＝計画課）

国有林間伐・再造林推進コンクール表彰式

◆長官表彰1社・局長表彰3社を表彰◆

平成30年度国有林間伐・再造林推進コンクールの表彰式を九州森林管理局で行いました。

本コンクールは、国有林野事業で実施した間伐、主伐・再造林及び立木販売において、法令の遵守、安全の確保及び担い手の育成に積極的に取り組むとともに、高い生産性を達成した優れた事例を表彰するものです。

今年度は、南那珂森林組合（宮崎県串間市）が実施した事例が林野庁長官表彰の優秀賞を受賞され、また株式会社多良木材（佐賀県吉野ヶ里町）、小村木材合資会社（宮崎県宮崎市）、株式会社山崎産業（宮崎県延岡市）が実施した3事例が九州森林管理局長表彰の優秀賞を受賞されました。

今年度の受賞のポイントとしては、長官表彰に輝いた南那珂森林組合の事例は、「高性能林業機械を活用した生産性向上及



コンクール受賞者の皆さんと

び労働災害の軽減」が高く評価されたものです。また、局長表彰を受賞された3事例については、「列状間伐と高性能林業機械の導入による伐倒、集材コスト削減」、「グループ型パケットフォワード2台の導入による生産性の向上」、「列状間伐と高性能林業機械の組合せによるコスト削減」、「担い手の育成」などがそれぞれ高く評価されました。表彰式終了後には、生産性の向上や再造林コストの削減等について受賞者からの貴重な意見を伺い、今後の事業に役立てるために意見交換会を実施しました。

九州森林管理局のホームページに各受賞事例の概要を公表し、民有林を含めた九州一円への普及、推進を図っていくこととしています。

（担当＝資源活用課）

第4回国有林材供給調整検討委員会を開催

〜現時点での供給調整は要しないとの検討結果〜

3月13日に、本年度第4回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現時点での供給調整は要しない」との検討結果となりました。



検討委員会の模様

シエアが伸びなければ、森林・林業基本計画で示されている10年後の合板向け原木利用量600万立方材の目標は達成出来ないのではないか。

製紙業界を取り巻く環境は年々厳しくなっている。熊本県内の製紙工場のフル生産に変化は無いが、全国ベースの生産状況はスローダウンしている。

従来、製紙用チップの原料となっていた原木が、輸出用原木価格の高騰によりそちらに流れているためチップ業界の原木集荷にもかなり影響が出ている。

これまで引っ張ってきいていた熊本地震の復興需要がこの辺でピークは過ぎたのかなと感じている。

貸家、マンション、アパート物件がバブル的になっていて反動が来そうだなと心配している。輸入材の代替需要に関しては、同じ着工戸数でもシエアアップできる環境にあるのではないかなと思っている。

今年に入り製品の動きが徐々に悪化してきている。ただしKD材を中心に価格の方は何とか横ばいで推移している。

過積載問題があり、トラック

各委員からの主な意見は次のとおりです。
○合板需要がここ数年好調な中、昨年は国産材専門の合板工場が新たに2工場出来たが、出荷量は対前年比マイナスとなった。合板生産のキャパがほぼ頭打ちにきているのではないか。
合板需要の約半分を輸入合板が占めているが、さらに国産材

は積む量を2〜3割減らしており、運賃を2割アップしてくれよう原木・製品ともに要請されている。

天候も良い時期が多かったことから、市場への出材は順調だが、売れた材を運ぶにもトラックが積める量が2割減った関係で引き取りが進まず材があふれている。

国有林材の供給調整を行う必要は無いが、今後の動向は注視していかないと一歩間違えると暴落状態になる可能性も含まれているのではないかと。

九州北部ではスギは需要が多く、どれだけ出材量が多くても大丈夫と言うくらいまで引き合いがあるが、ヒノキはまだまだ需要が少ない。

合板や輸出の原木需要は九州では益々拡大してくると思っている。それに見合う生産が本当にできるのかと心配している。

国産材が必要に追いつけないということになるかとやっぱり安定供給と言う面から国産材は信用できないということになりかねない。

近頃、バイオマス発電向けの原木が足りない。地元でも値上げして単価8000円台もでてきた。他の地域も暫くすると値上げの話が出てくるだろうと言う話も聞く。

国道、県道などの舗装道路を

走る運転手はいるが、山に入ってくる運転手は少ない。トラック木材輸送は問題が大きくなっている。

小径丸太の流れが変わってきている。輸出の商社等が小径の曲がりまで取るようになった。

小径曲がりも前回の市で輸出用で9900円/立方材だった。チップ用やバイオマスに流れていたものが、この価格を知って市場に出てくるようになった。

今後は市売りから直送に移行するのかなと思っていたが、値段の動きや買い方の動きによっては市場の集荷のやり方もまだまだあるのかなと思っている。

担当地域木材情報分析官

茶臼原小学校にて

「木と子供ふれあい教室」を開催する

【西都児湯森林管理署】2月8日に西都市立茶臼原小学校において「木と子供ふれあい教室」を開催しました。



釘が真っ直ぐに打ち込めたかな



熱心に本立てを製作

当日は気温が低く寒い中、小学4年生から6年生までの生徒28名を対象に、西都市役所をはじめ、地元関係者の協力のもと「竹林整備と竹製品について」、「森林と仕事」、「木工品作成（木製本立）」を行いました。子供達は森林の役割や、生活の中にある森林に係わる仕事をみんな考えて学び、竹を使用した腰掛けや椅子などの製品を肌で感じていました。また、自分だけの木製本立作りでは、釘が曲がってしまったり慣れない作業の中、互いに協力し作業を楽しくしながら本立を完成させることが出来ました。本立を作成した後、グライダーの様に飛んでいくアルソミトラの種の模型を作り、どうすれば上手に飛ばせるか模索したり、飛距離を競い合ったり皆で楽しそうに学び、終始笑顔の多い森林教室になりました。

次世代を担う子供達が「森林

と仕事」の大切さと「木の温もり」を感じる事ができるこの貴重な体験を今後も続けていく考えです。

一ツ葉海岸林において森づくり祭を開催する

【宮崎森林管理署】3月3日、宮崎市の一ツ葉海岸林において、宮崎市みどり推進会議との共催により「平成30年度森づくり祭」を開催しました。

当日は、前日から降り続いていた雨も止み、宮崎市の田上明彦副市長、来賓代表等の挨拶の



森づくり祭に参加された皆さん

この取り組みは、地域との連携により毎年実施しているものであり、参加者からは「自分の植えたマツが大きく育つのが楽しみ」といった声が聞かれるなど、参加者に身近な海岸林に親しむをもってもらう良い一日となりました。



植林の様様

後、関係団体や市民ボランティア等、約110名の参加のもと抵抗性クロマツ800本を植樹しました。今回の会場は、前年度にマツカレハ虫害による被害を受けた箇所です。

鹿児島県木材銘木市場において屋久杉土埋木の委託販売を実施する

【屋久島森林管理署】3月5日、鹿児島県木材銘木市場において開市から70年の節目となる第241回銘木市が晴天のなか開催されました。当署からも本年度2回目の委託販売として屋久杉土埋木約86立方材のほかヒノキ約2立方材、台風などにより倒木したモミ約8立方材を出品しました。

当日は、鹿児島県内外より各種銘木が出品され、全国から約30名の買方者を含め見学者約130名が参加する中、市場の柴立鉄彦代表理事の開会挨拶、当局的松葉瀬裕之森林整備部長の来賓挨拶の後、市のメインとして極積みされている屋久杉土埋木の競りが開始され、競り子の威勢の良い掛け声とともに、次々と競り落とされていきました。



挨拶する松葉瀬部長

川畑充郎屋久島森林管理署長を筆頭に、署の職員も「よろしくお願ひします」と声を張って市を盛り上げました。

その結果、立方材300万円を超える入札が4極あり、最高入札単価は立方材当たり366万円、値がつくとともに、平均入札単価は立方材当たり約80万円で見事な結果となりました。



セリの始まり

当署では、長年にわたり鹿児島県木材銘木市場において屋久杉土埋木の委託販売を実施してきましたが、今回の銘木市をもって平成の時代とともにその歴史に幕を下ろすこととなります。これまで土埋木の市売りにご尽力頂いた市場関係者や多くの買方関係者のご協力もあり、最後の市売りにふさわしい盛り上がりの中、全極を無事販売することができました。

今後、貴重で限りある資源である屋久杉土埋木については、協定締結式の冒頭、当署松永善人森林技術指導官から協定締結に至る経過等が説明された後、



調印後の藤木町長（左） 森署長（右）

【熊本森林管理署】3月6日、御船町役場応接室において、御船町と熊本森林管理署との間で「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」締結式が、御船町職員や熊本森林管理署員及び報道関係者ら9名が出席し実施されました。

御船町と地域の安全確保等の協定を締結する

鹿児島県の伝統産業用資材のみの販売となりますが、当署としては少しでも長く生産・販売出来るように取り組むとともに、引き続き屋久杉の人工林の需要拡大に関係機関と連携しながら取り組み、収入確保に努めていく考えです。

協定者である藤木正幸御船町長と森勇二熊本森林管理署長による協定書の確認と署名が行われ協定が締結されました。

続いて、協定者を代表して藤木町長から「今回の協定締結を始めとし、町民が国有林を含めて森林を活用するチャンスを得た。森林での体験等（森の学校など）、思い切った取り組みを進めていきたい。」と挨拶、また、森署長からは「御船町・吉無田水源の約410畝の国有林と周辺の民有林について、林道の被害や不法投棄などの情報共有及び被害が発生した場合の復旧への技術支援を行い、これまでに以上に御船町と連携していきたい。」と挨拶しました。

「佐伯市傾山地域森林整備推進協定」による運営会議を開催する

【大分森林管理署】3月7日、大分森林管理署会議室において、平成30年度「佐伯市傾山地域森林整備推進協定」運営会議を、大分県農林水産部森林整備室、森林研究・整備機構、森林整備センター大分水源林整備事務所及び大分森林管理署から総勢10名が出席して運営会議を開催しました。



意見交換の様子

に台風18号の影響により被災した西山林道の復旧状況が話題となり、高倉邦彦総括森林整備官から、対象森林へ通ずる重要な林道である西山林道は、平成30年12月に完成した旨の報告を行いました。

はじめに、坂本和隆大分森林管理署長から「本日の「佐伯市傾山地域森林整備推進協定」の運営会議は、今後の協定による取り組みを充実させ、地域の森林・林業発展に繋げる重要な会議であります。また、森林整備推進協定は民国連携の重要な取り組みの一つであり、関係各位から積極的なご意見をいただきたい。」と挨拶を述べました。

本日の運営会議は、植薄和彦森林技術指導官が進行を務め、各機関から平成30年度の取組状況、2019年度以降の事業計画等の報告を行い、その後、今後の運営会議の在り方について意見交換を行いました。

会議の中では、平成29年9月

猪八重溪谷でコケの勉強会を開催する

【宮崎南部森林管理署】昨年、宮崎で初めて日本の貴重な森に認定された日南市北郷町の大荷田国有林の猪八重溪谷で、公益財団法人服部植物研究所の片桐知之所長を講師に招きコケの勉強会を開きました。

まず、署会議室でコケの基礎知識を1時間ほど講義いただいた後、猪八重溪谷に入り、五重



こけの基礎知識を学習

の滝、流合の滝周辺でカクレゴケやニチナンヤステゴケ、オビケヒラゴケなどの希少種をはじめ20種類以上のコケを観察しました。



猪八重溪谷で観察会

参加者は、遊歩道のすぐ近くで貴重なコケがあることに驚きながら、ルーペを片手に神秘的なコケの様子を熱心に観察していました。

今後とも公益財団法人服部植物研究所、日南市、地域の方々と連携を図りながら、貴重なコ

屋久島地域森林整備推進協定の第2回運営会議を開催する

【屋久島森林管理署】3月13日、屋久島地域森林整備推進協定の平成30年度第2回運営会議を、協定者である当署、屋久島町、鹿児島県森林整備公社、屋久島森林組合の関係者18人が参加して、島内に設定した森林共同施業団地について鹿児島県屋久島事務所会議室で開催しました。



運営会議の模様

会議は一口竜也森林技術指導官の司会進行により、冒頭川畑充郎屋久島森林管理署長の挨拶の後、各協定機関から平成30年度の事業実績及び2019年度の事業計画が報告されました。また、19年度・20年度協定区域

ケの森でもある猪八重溪谷を守っていきたくと思います。

内の各機関の施業予定箇所、屋久島内の地杉苗の現在の生産状況と将来に向けての生産目標、第1回運営会議で現地検討した奥岳252林道の現在の施工状況等を説明し、今後の民国連携した森林施業に繋げていくこと等を説明しました。

続いて意見交換に入り、離島が持つハンディの解消、森林整備公社の更新伐の現在の検討状況やドローンの導入による林業労働者の労力軽減等の意見が出され活発な意見交換を行うことができました。

最後に参加者全員で今後の屋久島全体の事業量の確保や主伐・再造林の促進等について確認を行い、有意義な運営会議となりました。

対馬・五島地域森林整備推進協定運営会議を開催する

【長崎森林管理署】2月6日に対馬地域、2月26日に五島地域において民有林と国有林が連携して間伐等の森林施業や効率的な路網整備を推進するための森林整備推進協定運営会議を開催しました。

開催に当たって、秋山郁男長崎森林管理署長から「林業の成長産業化に向けて、この会議を通じて民国の情報交換を行いながら、より良い森林整備を行う



対馬にて運営会議



対馬の現場で検討

ていきたいと考えているので協力をお願いする。」との挨拶がありました。

会議が進行する中で、翌年度に更新を迎える対馬地域では「他県の取組事例等の情報が必要である。」「労働力不足の中、就労に対する勉強会の開催はできないか。」などの意見が出され、五島地域においては「現在の協定枠組みをオプザバーとして参加いただいている眞振興局、林業公社、森林整備センターの事業区域を含めた協定区域の拡大ができないか。」「島内に



五島にて運営会議



五島の現場で検討

林業事業体が1社しかないことから、新たな参入を促進するための勉強会を開催できないか。」などの活発な意見がだされました。

午後からは、これまで国有林のフィールドで現地検討会を実施していたものを今回は、対馬・五島両地域とも林業公社有林で行い、路網の開設や間伐後の状況等について活発な意見交換がなされました。

今後も離島ならではの林業の課題解決に向けた取組を行っていくことで運営会議を終了しま

した。

宮崎地方検察庁による司法警察員の研修を行う

【宮崎南部森林管理署】3月14日、宮崎地方検察庁から古泉伸彦検事を講師としてお招きし、司法警察員の心構え、捜査に当たった際の留意事項等について研修を行いました。

検事からは、捜査の基本として厳正、公正、しかし謙虚な姿勢で、先入観は排除すること、被疑者と同じ土俵の上で相撲を取らないこと(客観的な目線で相手のペースに乗らないこと)、自らの目で現場を見ること、ブラスの証拠だけではなくマイナスの証拠にも目を向けるべきであることなど「捜査の基本10項目」を丁寧に説明していただきました。



古泉検事による研修

また、民有林の盗伐問題について、実際に現場へ足を運んだが、非常に境界が不明瞭で起訴するのは難しい状況であり、境界の確定明確化が喫緊の課題であるとの指摘もありました。

山岳ガイドがボランティア活動を実施する

【屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター】3月13日から15日の3日間、屋久島内で活動する屋久島山岳ガイド連盟(古賀頭司代表など)3団体の山岳ガイド延べ16人の方々が、日頃から縄文杉等への登山客を案内する際に利用している小杉谷休憩舎の屋根補修のボランティア



ボランティアにて屋根補修

ア活動を、昨年の6月に続いて実施しました。

今回のボランティアには、当署から山邊隆広総括森林整備官、井誠喜森林官、三國稔典地域技術官、山口聖哉官、保全センターから永山博美自然再生指導官も同行して、ガイドの皆さんと一緒に休憩舎の屋根の雨漏り箇所を補修しました。休憩舎の清掃と屋根の補修は昨年6月にも実施して頂いていましたが、屋根



太田 美樹子

(福岡県川崎町在住)

私は、地球温暖化や、地震やゲリラ豪雨時の山くずれば、まぎれもなく森林の伐採の結

や壁の補修が十分ではなかったため再度手直しをして頂きました。

ガイドの皆さんの懸命な作業の結果、休憩舎の屋根(山側)は見違えるように綺麗になるとともに、雨漏り箇所も今回の作業で修復され、3月に入り登山パスも再開され、縄文杉などへの本格登山のシーズンを迎え、また雨の多い屋久島において引き続き観光客に心地よく利用して

果たと思っています。森林の緑が温暖化を防ぎ、木の根っこが大地を守ってくれているのだということをもっと大きな声で伝えていかなければと思っ、国有林モニターに応募しました。

モニター会議に参加して、どんなふう発言しようかと、あれこれ思案していましたが、モニターになってこの一年、



成人の日お孫さんと

毎月送っ ていた だいて いる各 種資料 に目を 通して、 その内 容の素 晴らし さにた

徳之島で「保護と利用に関する協定の調印式を行う」

頂けるようになりました。

【鹿児島森林管理署】3月19日 天城町役場町において、森田弘光天城町長、山口輝文鹿児島森林管理署長、徳之島エコツアールガイド連絡協議会的美延睦美会長の三者で「剥岳林道及び三京林道の利用に関する協定」の調

ただただ感動して、本当にこと細かい取り組みを、こんなにたくさん力を入れて仕事をされている九州森林管理局のあり方に敬服しました。すべての各種資料は読みやすく、理解しやすく、カラー絵入りは本当に美しく、毎月届くのがとても楽しみです。

もうこれ以上上木を切らないで

九州森林管理局 一体どんな 組織で、一丸となって成立しているのだろうか、仕事をすすめてこういことなのではなからうかと感動しています。私が50才若かったら、一緒に仕事をさせていたいただきたい心から思うほどです。

印式を行いました。この協定の目的は、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録を見据え、希少種保護と林道利用の調整を図るとともに、国民の理解と協力を得ることが目的です。両林道を含む周辺国有林は、平成25年3月に奄美群島森林生態系保護地域に指定され世界自然遺産推薦地にも含まれていることから、今後、両林道について



調印を終えた三者方

うかとの私の心配は吹き飛びました。管理局の皆さんの熱意と努力を本当に強く感じ、安心しました。

工場が一棟出来ました。わずか38軒の小さな集落の、すぐそばの山の現実です。これが日本中のあちこちで行われているのですからとんでもない事だと思っています。

山の木が植わっていることの重大さを忘れていた。このまま山の木を切り続けられたら、100年後、いや50年後には日本は崩壊する。孫やひ孫たちはどうやって生きていくのか・・・。私は、絶対にそうならないように、「もうこれ以上上木を切らないで！」と、大きな声で伝えたいです。

は、原則として同協議会の認定ガイド同行での入林をお願いすることとしました。

協定にあたり森田町長は「地域と一体となり世界に誇れる自然を守りたい。」、美延会長も「先祖達が残した豊かな自然を子や孫に伝えていけるよう尽力したい。」と決意を述べられました。また、山口署長は「世界自然遺産の登録に向けて厳格な保護に取り組む姿勢を示すとともに、遺産登録に向けた準備が地元一体で進んでいることもアピールできる。」などと協定の意義について説明しました。

今年の夏から秋にかけては、IUCN（国際自然保護連合）の現地調査も予定されていることから、国、県、地元自治体及びNPO団体等と一体となり、更なる希少野生動物植物の保護等に努めながら準備を進める考えです。

人のうごき

☆3月31日付退職

- 崎野健輔【福岡署】
- 金井正典【西都児湯署】
- 坂梨哲章【大分西部署】
- 久木田一光【都城支署】
- 立石明子【大分西部署】
- 立久保さとみ【北薩署】

☆3月31日付異動（退職）

（研）森林整備センター九州整備局宮崎水源林整備事務所
有村佳将【資源活用課】

☆4月1日付異動

- 林野庁管理課管理官
- （人事管理担当）
- 両角 実【総務企画部長】
- 総務企画部長
- 秋岡陽一郎【関東局下越署長】
- 森林整備部長
- 久保芳文【中部局南信署長】
- 近畿中国局滋賀森林管理署長
- 山崎 準【計画課長】
- 関東局会津森林管理署長
- 乾 光一【計画保全部付】
- 宮崎森林管理署都城支署長
- 有園敏行【森林整備部企画官】
- （宮崎署都城支署駐在）
- 北薩森林管理署長
- 古市真二郎【屋久島森林生態系保全センター所長】
- 熊本森林管理署長
- 川畑充郎【屋久島署長】
- 屋久島森林管理署長
- 西 純一郎【北海道局上川北部署長】
- 福岡森林管理署長
- 角 秀敏【中部局中信署長】
- 宮崎南部森林管理署長
- 井上隆裕【中部局流域管理指導官】
- 佐賀森林管理署長
- 津田京子【近畿中国局広島北部署長】
- 長崎森林管理署長
- 村田孝彦【近畿中国局経理課

長）
西都児湯森林管理署長
鶴山道弘【四国局森林整備課長】

課長

- 計画課長
- 河邊 喬【大臣官房秘書課管理官】
- 保全課長
- 峰内浩昭【計画保全部企画官】
- 資源活用課長
- 本林静夫【森林整備部企画官】
- 森林技術・支援センター所長
- 濱田辰広【大分署次長】
- 屋久島森林生態系保全センター所長
- 黒木興太郎【（独）水資源機構筑後川局】
- 西表森林生態系保全センター所長
- 草野秀雄【森林整備部企画官】
- 総務企画部専門官（契約適正化担当）
- 矢島欣也【保全課長】
- 総務企画部専門官（契約適正化担当）
- 一口哲美【福岡署次長】
- 森林整備部企画官（技術開発・普及担当）
- 井野常雄【流域管理指導官】
- 佐藤敏郎【自然遺産保全調整策担当】
- 古島勝美【佐賀署次長】
- 自然遺産保全調整官

江藤幸二【大隅署次長】
森林整備部企画官（間伐推進担当）（宮崎署都城支署駐在）
長瀨 直【熊本署次長】

野生鳥獣管理指導官

- 橋口康朗【熊本南部署森林技術指導官】
- 治山課流域保全治山対策専門官
- 山村晃弘【近畿中国局広島署付】
- 治山課災害対策専門官
- （森林整備部森林整備課付）
- 吉田真佐也【治山課災害対策専門官】
- 計画保全部企画官（財産管理担当）
- 廣田忠善【西表森林生態系保全センター所長】
- 福岡署次長
- 杉野隆二【鹿児島署次長】
- 熊本署次長
- 久保幸治【宮崎署次長】
- 大分署次長
- 永田 豊【沖繩署次長】
- 宮崎署次長
- 山崎 泉【計画課課長補佐】
- 佐賀署次長
- 志賀栄一【資源活用課課長補佐】
- 大隅署次長
- 古川浩児【森林技術・支援センター副所長】
- 沖繩署次長
- 古澤竜喜【沖繩署総括事務管理官】
- 鹿児島署次長

久保田修【宮崎署都城支署総括事務管理官】
林野庁業務課特別災害技術班調査係長

後藤彰彦【福岡署】

- 林野庁業務課財産管理・処分班林野管理係長
- 上田益大【熊本署】
- 林野庁森林整備部研究指導課育種班特定母樹係長
- 原田美千子【企画調整課】
- 林野庁計画課（設計基準班設計基準係）
- 松川弘幸【沖繩署】
- 林野庁森林利用課森林集積企画班企画係長
- 室木直樹【宮崎署】
- 林野庁林政課人事第2班地方給与第5係長（九州局総務企画部総務課付）
- 谷端美菜子【総務課】
- 沖繩署地域技術官
- 田中靖政【林野庁林政課】
- 計画課
- 近藤瑞穂【林野庁管理課】
- 企画調整課
- 角田まり絵【林野庁経営企画課】
- 鹿児島署総括地域林政調整官
- 積 正治【近畿中国局森林整備部企画官】
- 環境省九州地方環境事務所国立公園課課長補佐
- 木下栄治【大分西部署】
- 近畿中国局治山課治山技術官
- 歌野昭彦【北薩署】

近畿中国局森林技術・支援センター

小笹恵実【北薩署】

総務課広報主任官

田斐孝生【大分西部署】

総務課課長補佐(福利厚生担当)

平野耕一【鹿兒島署】

総務企画部

田村実加【大隅署】

総務課人事係長

清田 誠【熊本署】

総務課給与係長

木村嘉彦【総務課】

企画調整課企画官(情報処理担当)

渡邊昭博【屋久島森林生態系保全センター】

猪鳥真由美【保全課】

企画調整課監査係長

企画調整課林政推進係長

谷口良治【大臣官房広報評価課評価専門職】

經理課企画係長

草野真一【総務課】

經理課支出係長

河内勝秀【經理課】

經理課主計係長

内海康雄【熊本南部署】

經理課經理第一係長

秋吉勇二【經理課】

屋久島森林生態系保全センター(生態系管理指導官)

宮木利浩【環境省九州地方環境事務所国立公園課課長補佐】

計画課課長補佐

小野貴行【鹿兒島署】

計画課計画調整官

松永善人【熊本署】

計画課経営計画官

古村健児【大分西部署】

計画課経営計画官

山下和也【計画保全部付】

保全課測定技術指導官

武原龍行【沖繩署】

保全課

乗富真理【宮崎南部署】

治山課課長補佐

松岡良二【治山課】

治山課設計指導官

山下裕之【大隅署】

治山課治山技術官

吉田幸一【長崎署】

治山課

宮崎 海【都城支署】

治山課企画係長

佐藤 剛【企画調整課】

屋久島森林生態系保全センター

美村訓宏【大分署】

夏田豪介【大分署】

才木伸洋【西都児湯署】

前杉成美【都城支署】

竹部浩一郎【都城支署】

湯地幸夫【都城支署】

福山弘一【都城支署】

境田政照【都城支署】

安達寛己【宮崎南部署】

加藤達己【宮崎南部署】

前田三文【北薩署】

和田誠二【北薩署】

荒木政明【鹿兒島署】

中間文博【鹿兒島署】

瀬戸 寛【大隅署】

自然再生指導官

山部国広【西表森林生態系保全センター】

西表森林生態系保全センター

自然再生指導官

山邊隆広【屋久島署】

資源活用課課長補佐

藤川晃久【宮崎北部署】

資源活用課素材供給係長

松永恭一【北薩署】

技術普及課課長補佐

田中 幸【經理課】

技術普及課技術開発主任官

中川裕司【長崎署】

技術普及課企画官(民有林連携担当)

福山拓也【鹿兒島署】

技術普及課

二子石文子【総務課】

屋久島森林生態系保全センター

専門官(保全課付)

佐伯卓也【計画課】

屋久島森林生態系保全センター

専門官(森林整備課付)

真井 正【技術普及課】

屋久島森林生態系保全センター

諫山雄一郎【長崎署】

西表森林生態系保全センター

生態系管理指導官

永山博美【屋久島森林生態系保全センター】

森林技術・支援センター副所長

井上 正【技術普及課】

福岡署森林技術指導官

田代美喜男【治山課】

福岡署地域技術官

小野稔和【福岡署】

福岡署主任事務管理官

井本清水【佐賀署】

福岡署総括森林整備官

金田伸也【総務課】

福岡署森林整備官

小屋敷祐二【大隅署】

福岡署治山技術官

中村健一【大分署】

福岡署首席森林官

園田清隆【大分署】

福岡署森林官

栗林潤一【長崎署】

福岡署首席森林官

津川敏之【佐賀署】

佐賀署森林技術指導官

副島利博【福岡署】

佐賀署地域林政調整官

廣石 功【総務課】

佐賀署

橋本暁寛【長崎署】

佐賀署事務管理官

一山祐子【佐賀署】

佐賀署主任事務管理官

平田和之【福岡署】

佐賀署治山技術官

川野 等【屋久島署】

佐賀署首席森林官

井川武史【鹿兒島署】

長崎署

山元義希【大分署】

長崎署事務管理官

木崎真一郎【宮崎署】

長崎署総括森林整備官

渡邊昭伍【計画課】

長崎署主任森林整備官

《退職》長い間「苦み」までした

3月31日付定年退職

松葉瀬裕之(森林整備部長)

西林寺隆(総務企画部専門官)

官)

田代今朝広

(総務企画部専門官)

山崎勇勝(企画調整課)

山岡文麿(計画課)

本村明広(森林整備課)

西 栄二(資源活用課)

山下義治

(森林技術・支援センター)

川部静也(佐賀署)

吉田正一(佐賀署)

秋山郁男(長崎署)

山口辰郎(長崎署)

森 勇二(熊本署)

澤田逸男(熊本署)

岩下春記(熊本署)

中村昭一(熊本南部署)

大久保重孝(熊本南部署)

木村圭文(大分西部署)

井 孝好(大分署)

田上俊久(大分署)

美村訓宏(大分署)

夏田豪介(大分署)

才木伸洋(西都児湯署)

前杉成美(都城支署)

竹部浩一郎(都城支署)

湯地幸夫(都城支署)

福山弘一(都城支署)

境田政照(都城支署)

安達寛己(宮崎南部署)

加藤達己(宮崎南部署)

前田三文(北薩署)

和田誠二(北薩署)

荒木政明(鹿兒島署)

中間文博(鹿兒島署)

瀬戸 寛(大隅署)

美村訓宏(大分署)

夏田豪介(大分署)

自然再生指導官

山部国広【西表森林生態系保全センター】

西表森林生態系保全センター

自然再生指導官

小野稔和【福岡署】

福岡署主任事務管理官

井本清水【佐賀署】

福岡署総括森林整備官

市原増雄【長崎署】
 長崎署森林整備官
 永野達也【長崎署】
 長崎署総括治山技術官
 高森好文【熊本署】
 長崎署治山技術官
 高倉博文【沖縄署】
 長崎署治山技術官
 淵上翔吾【治山課】
 長崎署地域技術官
 清田泰志【大分西部署】
 熊本署森林技術指導官
 中嶋紀光【大分署】
 熊本署主任事務管理官
 下村裕治【総務課】
 熊本署事務管理官
 北里春香【熊本署】
 熊本署主任森林整備官
 小園英行【資源活用課】
 熊本署森林整備官
 濱田祥吾【大隅署】
 熊本署主任森林整備官
 藏原 剛【熊本署】
 熊本署森林整備官
 濱口絵里奈【総務課】
 熊本署総括治山技術官
 歌野邦美【宮崎北部署】
 熊本署首席森林官
 奥田博司【大分西部署】
 熊本署首席森林官
 杉中邦浩【熊本署】
 熊本南部署森林技術指導官
 宮本和久【大隅署】
 熊本南部署地域技術官
 寺地祐人【総務課】
 熊本南部署主任事務管理官

木村 真【熊本南部署】
 熊本南部署事務管理官
 坂田 恵【熊本南部署】
 熊本南部署総括事務管理官
 熊本南部署主任森林整備官
 山本貴二【北薩署】
 熊本南部署総括森林整備官
 小薄政弘【北薩署】
 熊本南部署主任森林整備官
 中山俊和【熊本南部署】
 熊本南部署森林官
 椎葉智史【西都児湯署】
 熊本南部署森林官
 本田師久【大隅署】
 熊本南部署首席森林官
 平田謙吉【都城支署】
 大分署地域林政調整官
 山部秀巳【大分西部署】
 大分署地域技術官
 迫本翔太【保全課】
 大分署地域技術官
 橋本浩次郎【大分署】
 大分署総括事務管理官
 古閑智之【西表森林生態系保
 全センター】
 大分署主任森林整備官
 廣田光春【大分署】
 大分署森林整備官
 草野 誠【屋久島署】
 大分署主任森林整備官
 嶋 徹矢【福岡署】
 大分署総括治山技術官
 竹原敬一郎【治山課】
 大分署首席森林官
 堀田信広【福岡署】
 大分署首席森林官
 引地修一【宮崎北部署】
 大分西部署森林技術指導官
 日田仁志【佐賀署】
 大分西部署地域技術官
 小野千華【大分西部署】
 大分西部署
 庄司拓平【大分署】
 大分西部署主任事務管理官
 猪鳥憲治【経理課】
 大分西部署事務管理官
 守屋果奈【北海道局東大雪支
 署】
 大分西部署主任森林整備官
 高瀬智晶【大分署】
 大分西部署総括森林整備官
 荒木逸郎【大分西部署】
 大分西部署総括治山技術官
 田上 誠【長崎署】
 大分西部署治山技術官
 穴井隆文【大分西部署】
 大分西部署首席森林官
 川原 博【大分署】
 大分西部署地域統括森林官
 村上利晴【西都児湯署】
 宮崎署事務管理官
 橋本麻美【宮崎署】
 宮崎署総括事務管理官
 小糸照雄【技術普及課】
 宮崎署事務管理官
 羽野誠一郎【森林整備課】
 宮崎署主任森林整備官
 丸橋勝寿【都城支署】
 宮崎署森林整備官
 渡邊 明【宮崎北部署】
 宮崎署主任森林整備官
 谷口慎吾【都城支署】
 宮崎署総括治山技術官
 佐藤修治【治山課】
 宮崎署森林官
 小中原葵【西都児湯署】
 宮崎署首席森林官
 原口尚也【宮崎北部署】
 宮崎署
 藤本泰樹【計画課】
 宮崎署森林官

◇退任挨拶◇お世話になりました



前 森林整備部長
 松葉瀬 裕之

平成31年3月31日付けをもちまして定年退職となりました。40年足らずの勤務を振り返って

みますと、20年余が九州局管内での勤務でした。この間、それぞれの勤務地において、上司、同僚、職員の皆さまから、ご指導、ご支援、ご協力を賜り、公私にわたり楽しく、そして充実した日々を過ごすことができました。紙上をお借りして厚く御礼申し上げます。

入庁当時、特別会計であった国有林野事業は赤字財政で、す

で改善計画のまっただ中にあり、数次の改善計画を経た後に平成10年の抜本的改革を迎え、組織、要員の徹底した合理化と縮減が実施されました。さらに平成25年には国有林野事業は一般会計に移行して現在の姿があるわけですが、これらの改革は、まことに厳しいものではありませんが、国有林野事業の激動の歴史を経験することができたことは、今では自分が国有林生活で得た貴重な財産のひとつとなっています。

今や国有林野事業は、特別会計時代の事業官庁から行政官庁へと大きく変貌を遂げ、民国連携による地域の森林・林業の振興と発展、そして民有林支援による林業技術の普及・拡大に大きく貢献しているところです。

これからも地域の皆さまから期待される国有林であり続けますように、九州森林管理局のご発展と職員皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。退任のご挨拶といたします。

江口保広【熊本南部署】
 都城支署事務管理官
 河合さつき【宮崎署】
 都城支署総括事務管理官
 木村 宏【屋久島署】
 都城支署事務管理官
 稲員優次【屋久島署】
 都城支署森林整備官
 岩崎貴子【都城支署】
 都城支署主任森林整備官
 高木一将【都城支署】
 都城支署主任森林整備官
 谷山亜紀子【宮崎署】
 都城支署森林整備官
 森本博之【都城支署】
 都城支署治山技術官
 平生由菜【宮崎署】
 都城支署森林官
 古田敏也【長崎署】
 都城支署森林官
 川畑勇二【北薩署】
 宮崎北部署
 枘田明莉【技術普及課】
 宮崎北部署事務管理官
 岡田伸一【宮崎北部署】
 宮崎北部署森林整備官
 村上 学【宮崎北部署】
 宮崎北部署総括森林整備官
 後藤 毅【保全課】
 宮崎北部署森林整備官
 岩下正斉【宮崎南部署】
 宮崎北部署総括治山技術官
 峯 良彦【佐賀署】
 宮崎北部署治山技術官
 三浦健司【都城支署】
 宮崎北部署

山本遼平【企画調整課】
 宮崎北部署首席森林官
 穴山信二【西都児湯署】
 宮崎南部署
 三國卓裕【屋久島森林生態系
 保全セノタ】
 宮崎南部署総括事務管理官
 深田隼人【宮崎署】
 宮崎南部署主任森林整備官
 坂本法博【屋久島森林生態系
 保全セノタ】
 宮崎南部署主任森林整備官
 中西秀博【西都児湯署】
 宮崎南部署森林官
 園田節朗【都城支署】
 西都児湯署地域技術官
 朝田清子【佐賀署】
 西都児湯署
 西都児湯署

新ヶ江楓【沖繩署】
 西都児湯署
 中村 凌【森林整備課】
 西都児湯署事務管理官
 岩崎正二【宮崎南部署】
 西都児湯署事務管理官
 水野美香【宮崎署】
 西都児湯署
 前田悠貴【福岡署】
 西都児湯署総括森林整備官
 渡辺浩司【熊本南部署】
 西都児湯署首席森林官
 坂本雄二【屋久島署】
 西都児湯署首席森林官
 命苦健治【宮崎署】
 西都児湯署森林官
 吉良政敏【大分署】
 鹿児島署森林技術指導官
 平生陽介【鹿児島署】

鹿児島署地域技術官
 和田弥己【福岡署】
 鹿児島署
 浦田紘伸【宮崎北部署】
 鹿児島署
 富田尚斗【屋久島署】
 鹿児島署総括事務管理官
 煤本憲三【経理課】
 鹿児島署総括森林整備官
 片山恵介【宮崎署】
 鹿児島署森林整備官
 田中善成【西都児湯署】
 鹿児島署主任森林整備官
 深田成人【東北局治山課海岸
 防災林再生専門官
 (仙台署駐在)】
 鹿児島署治山技術官
 日隈俊幸【福岡署】
 鹿児島署首席森林官

渡瀬博美【屋久島署】
 鹿児島署首席森林官
 茂野 潤【近畿中国局岡山署】
 北薩署主任森林整備官
 古閑義郎【大隅署】
 北薩署主任森林整備官
 福岡直樹【北薩署】
 北薩署森林整備官
 白内慎哉【鹿児島署】
 北薩署森林整備官
 橋本敏一【熊本南部署】
 北薩署治山技術官
 中村英之【北薩署】
 北薩署森林官
 藤川涼一【北薩署】
 北薩署地域技術官
 松永直人【鹿児島署】
 北薩署地域統括森林官
 森永敏朗【福岡署】

◆ 転任挨拶 ◆ お世話になりました ◆



前総務企画部長
 両角 実

平成29年4月、熊本地震の傷跡が残る熊本の地に着任したのがつい先日のように思われます。

総務企画部長としてお世話になった2年間には、飲酒に関わることやマダニ刺咬による重症熱性血小板減少症候群・SFTSによる疾病災害の発

生など、全国的な対策に発展などした事案について関わったことが記憶に残ります。これらに対しては、専門家や有識者からの意見を聞く会議を設けたり、また、局全体の取組として真に実行あるものとするよう皆さんと考え意見交換をしつつ取組を進めさせていただきました。そうして作り上げられたものを進んで業務等に取り込んでいられる九州森林管理局がもつ、前に前に進むとすると力強さに感心するとともに、こうした姿

勢が、森林経営管理法など、森林・林業、木材産業を取り巻く情勢が大きく変化しつつあるこの時期に、「九州が牽引する林業の成長産業化」において、一歩進んだ九州の森林林業のやはり中心的存在として今後も進んでいってくださるものと確信したところで、また、年に一度開かれる熊本県庁チームを招待するなどとしてのソフトボール大会にも選手として参加させていただき、共に汗を流して白球を追い、皆さんと懇親を深めたことは私の貴重な思い出になりました。

今回は、25年ぶり2回目の九州局勤務でしたが、何事も前向きに取り組みとうとする職員のみなさんと公私ともに楽しく過ごさせていただいたことが、自身にとっても大きな財産になりました。九州森林管理局が益々発展するとともに、熊本地震や九州北部豪雨による激甚な山地災害からの一日も早い復旧、復興を心から願ひ、転任及びお礼のご挨拶とします。大変お世話になりました。ありがとうございました。

北薩署首席森林官
瀬戸口英昭【宮崎署】
北薩署首席森林官
淀水義文【熊本南部署】
大隅署森林技術指導官
高津忠孝【宮崎南部署】
大隅署
前田聖人【鹿児島署】
大隅署森林整備官
江島昭則【鹿児島署】
大隅署総括治山技術官
幾野俊彦【宮崎署】
大隅署森林官
平生 竜【宮崎南部署】
大隅署森林官
久保和幸【西都児湯署】
大隅地域統括森林官
竹永泰雄【熊本署】
屋久島署地域技術官
三國稔典【屋久島署】
屋久島署主任事務管理官
緒方誠治【都城支署】
屋久島署事務管理官
川野幸三【宮崎北部署】
屋久島署総括事務管理官
山本克郎【大分署】
屋久島署森林整備官
岩下晃之【鹿児島署】
屋久島署総括森林整備官
川口文明【北薩署】
屋久島署
山口 強【西都児湯署】
屋久島署森林官
黒谷幸樹【鹿児島署】
屋久島署首席森林官
阿南達也【沖繩署】

沖繩署地域技術官
田中靖政【林野庁林政課】
沖繩署主任事務管理官
林田 誠【企画調整課】
沖繩署総括事務管理官
間宮 学【治山課】
沖繩署総括森林整備官
山川祐一【宮崎南部署】
沖繩署森林整備官
関矢敬介【沖繩署】
沖繩署森林官
廣田俊之【屋久島署】
沖繩署地域技術官
石綿深志【宮崎署】

新規採用者紹介

長谷川京香（企画調整課）
西岡裕修（企画調整課）
中村麻己佳（経理課）
南 太志（経理課）
出原信大（森林整備課）
西村知樹（治山課）
丸岡仁人（福岡署）
春田魁登（佐賀署）
森 晴可（長崎署）
本村颯己（大分署）
上村好花（宮崎北部署）
牧島京石（宮崎署）
塩崎暢彦（都城支署）
岩井颯汰（宮崎南部署）
宮里有紀（北薩署）
川畑一步（鹿児島署）
佐藤真惟子（大隅署）
志村康介（屋久島署）



都会の中の憩いの森
多様な植物
監物台樹木園の

トウジユロは、名前の通り中国（唐）から渡来した樹木ですがシユロは、日本に古来自生していた樹木です。シユロとトウジユロはよく似ていますが、シユロは、葉は大きく開出して、成葉の裂片の先は折れ曲がって下垂します。トウジユロの葉は革質で成葉の裂片の先は下垂しません。



トウジユロ（樹高6m）



トウジユロ

トウジユロは葉先が下垂しないことから公園や庭園に観賞用として植えられ、シユロは葉や葉の茎の繊維質を日常生活に使ったことから人家近くに植えられています。

トウジユロは、排水良好な土地を好み、乾湿、陰陽の土地条件を選ばず、耐火性、耐潮性も併せ持つ強健な樹木で、他の庭園樹と違った姿形を持っているからと思われれます。

シユロの皮の繊維は耐水性があり、シユロ縄、刷毛、簀などの日用品に、シユロの幹は鐘つき棒に利用されているそうです。お寺の鐘突き棒を観察しましょう。

樹木園のトウジユロは、入り口すぐに6mの高さの樹冠を作っており、トウジユロの葉の特徴がよく分かります。

森林インストラクター
安案 行雄

137 トウジユロ（ヤシ科）



桜の花が鮮やかな季節が巡ってきた。桜が春に開花するメカニズムは、秋に次の春に咲く花芽ができ、寒い冬に花芽は休眠し、真冬の低温にさらされ、花芽は目を覚まし、春を迎え花芽が成長し、開花するそうだ。桜は、四季のある日本の春を彩る植物である▼日本の森林・林業も冬の時代から、ようやく春の兆しが見えきた。先人たちが、守り育ててきた森林資源が充実し、収穫期を迎えようとしている。とりわけ温暖な九州は全国に先駆けて主伐・再造林の時代が到来した▼しかし、再造林放棄地、誤伐・盗伐等の問題も起きてきた。季節に例えると、寒の戻りの様な状況かもしれない。桜も、暖冬の年には開花が遅れることがあるらしい。けれども、季節は移り行き本格的な春を迎え桜の花も満開へと進んでいく▼森林・林業でも、コンテナ苗・特定母樹・一貫作業システム等、新しいアイテムが生まれてきた。また、新たな法整備も進められている。森林林業にもやがて本格的な春がやって来るはずだ。

（や）